



[エマオ通信]

No.11 (2025 年 6 月 15 日発行)

発行人 高良 研一 (会長)

編集人 稲川 仁 (事務局長)

発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

24/25 年度主題: 「私と教会が元気になるには」

聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ> 「元気の源は出会いと交流から」

下川 俊也 (日本バプテスト大阪教会牧師)

6 月は「ペンテコステ」「神学校週間」「命どう宝の日」と目白押しですが、神学生時代に全国諸教会の皆様のお祈りと献げ物によって、私の学びと生活が支えられてきたことへの感謝を忘れることはできません。

福岡で 14 年、そして大阪に住んで 20 年が経ちました。大阪教会正面の通り道にはいつもいろんな人たちが行き交い、賑やかです。ここ数年、アメリカ、ブラジル、香港、台湾、韓国、ミャンマーのバプテスト教会や他派の教会から、大阪教会の礼拝や諸集会に来られる人たちが増えてきました。世界の情勢や様々な事情や課題を持って大阪に移住され、働いている人、中には離れた家族に仕送りをしている人、働くために日本語学校や専門学校で学んでいる人、仕事を探しておられる人など様々です。

そうした中、これまでの教会の青年たちに加え、国、年齢、性別、既未婚を問わない「はこぶねかふえ」というノアの箱舟をイメージした会が青年会に代わり、つくられました。会では、一人ひとりの自己紹介や課題をシェアして祈り合い、互いに知り合いになっていきました。又、壮年会や女性会からゲストを招き、クリスチャンになったきっかけや証を伺い、質問して答えるといった交流を定期的に行っています。

クリスマスやイースターの礼拝では、難しい歌詞やメロディーを覚え、練習を重ね、特別賛美も捧げられました。昨年バプテスマを受けたブラジル人のメンバーが、郷土料理「PASTEL」(パステル)の下準備をし、「はこぶねかふえ」で仕上げたものが教会の皆さんにも振舞われ、舌つづみ。豊かなキリストの「からだ性」を味わう一時となりました。こうした出会いと交流が「私と教会」を元気にしてくれます。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマ 12 章 15 節)



<証①> 「壮年会で働き の場を見出して」

原田 潔 (浦和教会)

私の教会生活は、当初は家族が浦和教会員であったので、教会への送り迎えや、クリスマスなどの特別礼拝日への出席と、教会行事のバザー等の手伝いでした。その後、毎主日の礼拝に通いだしてから 1 年、教会の皆様により支えられていることに思い当たり、祈ることの大事さを教えられて、バプテスマに導かれました。人付き合いが下手な私は、教会に馴染むために、聖歌隊の活動に参加し、練習等の集まりを通して段々親密になっていきました。

教会学校や奉仕で、豊かな時を与えられています。北関東地方連合、全国壮年会連合の集会にも出席し、「主にある交わりに生きる」ヨハネの手紙第一 1 章にある、み言葉が、集まっている皆様方が実践されているのを実感しました。

そんな中で、きたかん壮年会の役員を受ける機会が与えられましたが、新型コロナウイルス感染対策のため活動はあまりできずに、任期を終えてしまいました。昨年に、2025 年 8 月の全国壮年大会が北関東地方連合の担当と分かり、北関東地方連合の壮年として、関わって行かないといけないとの思いに至り、きたかん壮年会役員に復帰し、大会を準備するグループの輪を立ち上げて活動中です。この夏、多くの方々と交わりを持ち、活動に元気を与えられ、高められることを楽しみにしています。

この働きに参加することができたことに感謝しています。



<証②> 「キリスト教との出会いと現在の活動」

美園 和彦（伊集院教会）

私は、1961年に種子島に生まれ、高校まで種子島で過ごしました。大学のクラブ活動は空手道部を選びましたが、この空手道部の人間関係が信仰に入るきっかけとなりました。空手道部1年時に、2学年上の同部先輩が7人いましたが、この先輩方は私から見て、うらやましいほど仲のいい先輩たちでした。下級生の面倒見もよく、後輩にも「人生こうあるべき」といった話もしてくれました。ところが、この先輩方が卒業する3か月前から、だんだん仲が悪くなり、私に「本当は同期のあいつがずっと気に入らなかった」と言ったりしました。その後、私は人間関係が大変気になり、大学の先生方に相談をしましたが、その中である先生から人間関係に適切なアドバイスをいただきました。その先生に「先生の考え方の根拠はどこにあるのか」と尋ねてみると、「聖書のなかにある。一緒に教会に行ってみないか」と誘われました。教会に行くと、子どもから年配の方まで仲良く過ごし、また牧師先生のメッセージを聞いているのを見て、それまで経験したことのないコミュニティだと感じ、教会に継続して行きました。その後、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れることができ、大学3年12月にバプテスマを受けました。



園長 メッセージ風景

現在入信して40年過ぎ、仕事先も「キリスト主義の教育と保育」を建学精神とする認定こども園に変わりました。認定こども園では、毎週、幼児部門(幼稚園)礼拝を2回・学童部門礼拝を2回行います。日々の園運営もお祈りにより始め、また、年間を通じてキリスト教関係礼拝・イベントも行い、それぞれのメッセージはチャプレンと教職員(教会員)が連携して担当しています。今後も、地域への伝道活動の一環として、キリスト教主義の幼児教育に携わっていきます。

また、教会では若い方々への情報発信方法として、日々の教会活動を、Instagram(教会アカウント)を利用して、役員が中心となりアップしています。この協会活動紹介方法は時代が移り変わっていくと、別の手段に変わっていくと思いますが、当面はInstagramでの情報発信を続けていきます。ぜひ、「伊集院教会」と検索して、伊集院キリスト教会の活動をご覧ください。

<今後の歩みと働きのための祈り>

- ◎ 6月22日(日)～29日(日)に開催されます、豊かな神学校週間となりますように。神学校献金と献身者の掘り起こしのために、教会全体で祈り取り組むことができますように。
- ◎ 2025年8月22日(金)～23日(土) 第60回全国壮年大会 in さいたま(埼玉の浦和教会でオンライン併用)
 - テーマ これからの No Border な教会の話をしよう! ～教会が「教会」であり続けるために～
 - 主題講演 講師: 朴 思郁(日本バプテスト連盟宣教研究所所長、西川口教会牧師)
 - 良き学びの大会となるように、そして、準備にあたっている実行委員会のために祈りましょう。
北関東連合壮年会実行委員長: 戸田 浩司(西川口教会)
 - 参加費: 会場 2,000円 オンライン 1,000円 22日夕食懇親会 1,500円
 - 男性でも女性でも、どなたでも参加できます。お誘いあわせの上、申込んでいただけましたら幸いです。
 - 申し込み締切: 6月30日(月) 詳しくは、全国壮年会連合HP、又は、各教会・伝道所に送付されています、チラシをご覧ください。
- ◎ 7月5日(土)10時～12時 オンライン議案説明会(全国壮年会連合総会へ向け)(詳細は次号でお知らせします)
- ◎ 8月21日(木)、全国壮年会連合定期総会(文書総会)で次期(2026～27年度)全国壮年会連合役員(会長、副会長、監査2名)と奨学金委員長の選任のために。
- ◎ この4月からの2025年度より神学校献金が、神学生奨学金だけでなく、東京バプ、九州バプの両神学校への運営資金支援(年間350万円)として用いられるので、神学校献金の目標(総額2500万円)達成のために、各教会・伝道所が豊かに取り組めるように。
- ◎ 西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で教鞭をとっておられる教員の方々のために。
そして、これらの神学校で学ぶ献身した神学生が起こされるように教会・伝道所を上げて切にお祈り願います。
- ◎ 各地方連合や各教会を通じて、具体的な協力伝道の取組みや協力伝道派遣チーム(伝道隊)による、協力伝道の業により、一人ひとりが元気になり、教会が元気になることができるように。
- ◎ 特色と強みを生かした三つの神学校(西南大、東京バプ、九州バプ)と宣教研究所との相互連携により、諸教会・伝道所の各教会員の学びが豊かに祝われますように。
- ◎ 信徒一人ひとりが伝道者、そして献身者となり、教会の働きを担う主体となるために:
 - 神学校での(オンライン)受講等により、良き学びの機会が与えられるように。そして、信徒説教のための学びを深め、無牧師の教会・伝道所等での奉仕ができますように。信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。

<お願い>

- それぞれのところで主であって頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会(1965年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。